

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.28
平成25年1月24日

二分の一成人式—夢と希望を語る

1月22日(火)、4年生166名は、二分の一成人式を行いました。10歳という20歳のちょうど二分の一の節目に今まで立派に育ててくれたご家族や先生、お世話になった方々に感謝の気持ちを込めながら、一生懸命に呼びかけを行ったり、感謝の手紙を渡したり、合唱を行ったりしました。

将来の夢や希望を語る呼びかけでは、「大工さんになって、家族に立派な家を建ててあげたい」「コックになって、お父さん、お母さんにおいしいものを食べさせてあげたい」など、自分の成功や目標達成に向けての決意だけでなく、親や家族への感謝・恩返しの気持ちが込められた発表が多く見られました。ご参観の保護者の中には、感動のあまり涙をぬぐう方もいらっしゃいました。

夢と希望を新たに、今まで以上によりよい自分を創り上げていってくださることを願っています。



全校朝礼の話より (1/21)

給食週間にあって—「食事は、良い人になること」

日本で一番早く始まった給食の献立です。今から120年くらい前のことです。始まった場所は、山形県の小学校でした。当時はお屋ごはんを食べられない貧しい子どもたちがたくさんいました。学校に家からお弁当を持ってくることができない子どもたちが多くいたのです。そこで、学校の先生をしていたお坊さんが、おにぎり・焼き魚・つけもの、味噌汁といったお屋ごはんを、学校で出してくれたそうです。

これが学校でみんな揃って食べた「給食」の始まりです。みなさんの食べている給食とは随分違うけれど、初めて学校でみんなで一緒に食べた給食は、さぞおいしかったことと思います。

1月24日から「給食週間」が始まります。今から60年くらい前に、日本は、戦争が終わった後、食べ物がほとんど無い時代が続きました。おなかを空かした子ども達が日本中にたくさんいました。そんな時、日本の子どもたちを助けようと、世界中の国々から粉ミルクや缶詰などが送られてきました。それを、学校で子ども達に配り、給食が再開されたのです。この世界中の人々の温かい心によって、学校給食が再開されたことを大事にして、「**全国学校給食週間**」が始まりました。今日から始まる「全国学校給食週間」は、給食を通して食べ物の大切さとそれに関わる人の心の温かさを考える週間です。

では、給食の「食」という字について、考えてみましょう。この字をよく見てみると、「人(ひと)」に「良(よい)」と書きますね。「食」は人に良いのです。まずは、栄養が体に良いですね。栄養が無ければ生きていけません。さらに、友達や家族と一緒に食べると楽しくなります。心が豊かになります。心に良いのですね。「食事」は「人に良い事(こと)」です。そしてもう一つ、「食事」をすることは「良い人になること」なのです。「食事」にはたくさんの方々関わっています。

みなさんの給食もお米や野菜等、材料を作って(生産して)下さる農家の方々、それを新鮮なうちに早く届けてくれる方々、「みなさんに美味しく食べてもらいたい」と献立を作ってくれる若杉先生、そして、美味しく調理をしてくださる調理員さん、そんな思いが詰まっているのが「食事(給食)」なのです。そんな方々の温かな思いに、私たちはたくさんの方々の「ありがとう」という気持ちをもって頂くなくてはなりません。私たちは「食事」をすることを通して、「良い人になること」を改めて心に刻みたいですね。

この「給食週間」の期間を通して、給食の歴史をふり返り、食べ物の大切さや食事に関わる人達の思いに感謝の気持ちをもって食事をしてもらいたいと思います。